

## (8) 中国



中国地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は緩やかに増加している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_ は上方に変更、 \_ は下方に変更)

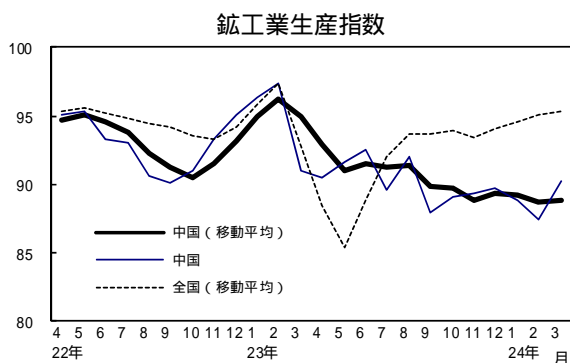
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成24年2月)	今回(平成24年5月)	
景況判断	足踏み状態	緩やかに持ち直し	
個人消費	おおむね横ばい	緩やかに増加	
住宅建設	減少	大幅に増加	
雇用情勢	緩やかに持ち直し	持ち直し	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

鉄鋼は、自動車向けの品目が好調なため増加している。化学は、工場の事故の影響やパラキシレンを生産する一部の工場で定期修理があったことなどから減少している。輸送機械は、新車効果の影響や人気車種の増産により増加している。一般機械は、前期に海外向けの大型プレス用金型が好調だった反動から減少している。電子部品・デバイスは、自動車やスマートフォン向け部品の生産が好調なことから、増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
鉄鋼	16.5	0.6	5.7	2.8	11.5
化学	16.1	3.2	2.7	3.5	6.0
輸送機械	14.8	1.4	0.4	1.8	3.8
一般機械	10.7	19.1	11.9	10.8	7.3
電子部品・デバイス	7.3	5.6	4.3	10.6	-
鉱工業	100.0	0.6	0.6	1.2	1.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期は速報値。

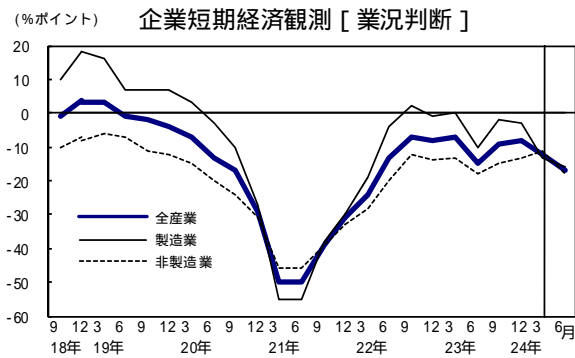
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。

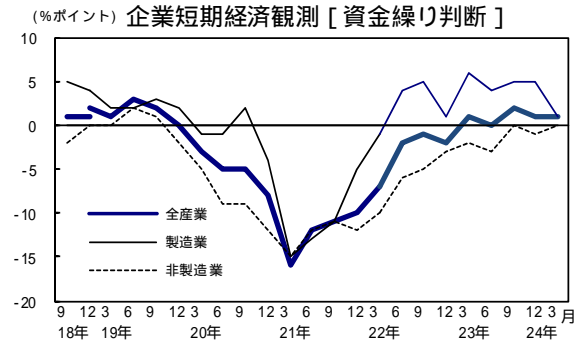
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

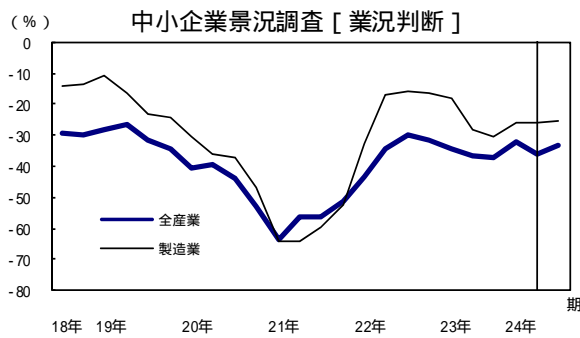
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年6月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

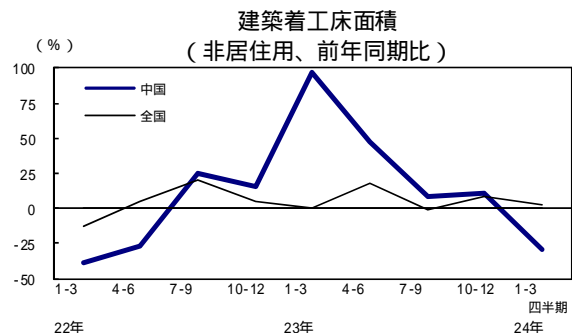
景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]  
「工場の生産はほぼフル稼働であるが、円高等により利益は出ておらず、価格の上方修正も思うように進んでいない(化学工業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績見込み	24年度見込み
全産業	2.0 ( 6.9)	2.6
製造業	1.8 ( 7.7)	4.1
非製造業	8.8 ( 5.5)	0.3

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに増加している。

### 大型小売店販売額

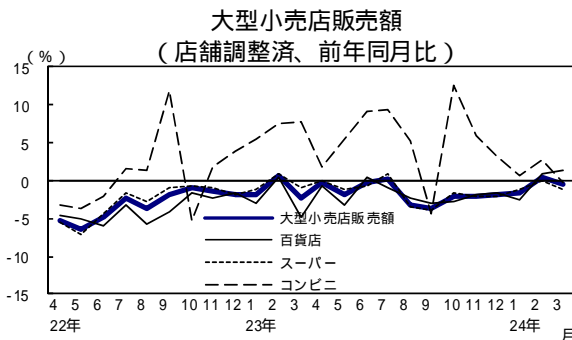
大型小売店販売額は、前年同期比で0.6%減、前期比で0.8%増となった。

百貨店は、1月は、福袋など初売が好調だったものの、強い寒気の影響もあり、客足が鈍く前年比低下幅は拡大した。2月は、気温が低く春物の婦人服が低調も、時計や宝飾品など高額品の一部で良い動きが見られ、セールも好調だったことから前年を上回った。3月は、前年の東日本大震災による影響の反動や、前月まで気温が低く低調だった春物衣料が動いたことから前年比増加幅は拡大した。

スーパーは、飲食料品が好調で、毛布や冬物の紳士服も好調に推移したことから、前年比低下幅は縮小した。

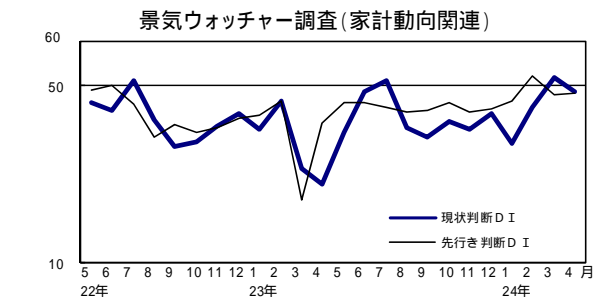
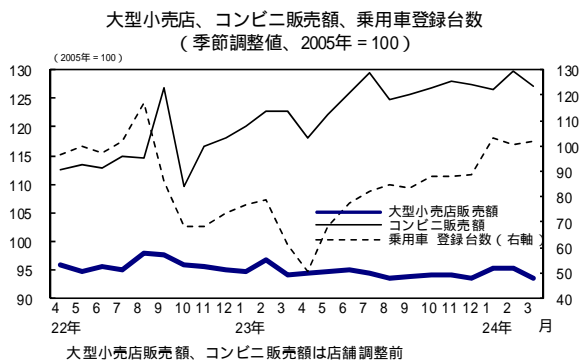
### 景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「気温も安定し衣料品関係が伸びており、初夏物など軽めの衣料品は好調であるが、食品については、いつも好調な物産展の来客数が前年を下回っており、百貨店の物産展より直接現地に出向いて遊ぶという客が多くなっている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月
大型小売店(*1)	0.8	2.1	1.9	0.6
百貨店(*1)	1.2	2.0	2.0	0.2
スーパー(*1)	0.6	2.2	1.9	0.8
大型小売店(*2)	0.7	2.2	1.4	0.3
(季節調整値)(*3)	( 0.6)	( 0.8)	(0.0)	(0.8)
乗用車(*4)	32.1	16.2	26.0	44.5
(季節調整値)(*4)	( 9.6)	(27.4)	(6.0)	(15.4)

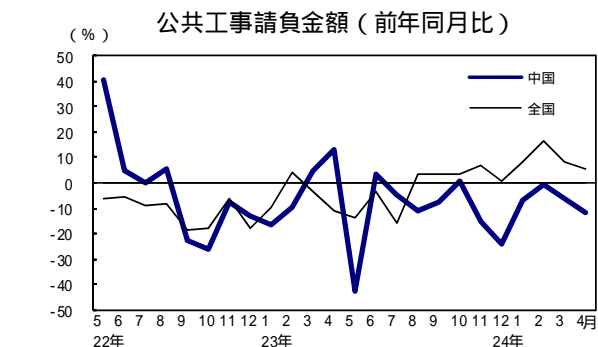
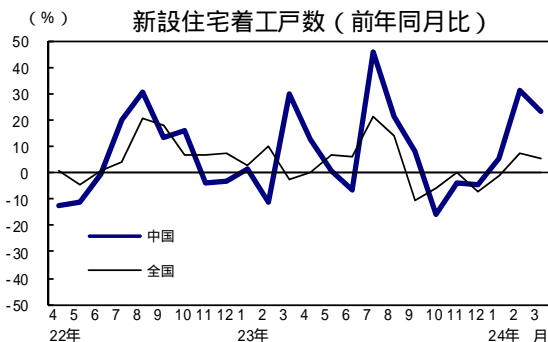
(備考) 1.店舗調整済、前年同期比(%) 3.店舗調整前、前期比(%)  
2.店舗調整前、前年同期比(%) 4.乗用車は新規登録・届出台数  
(上段:前年同期比、下段:前期比、%)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲で前年を上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

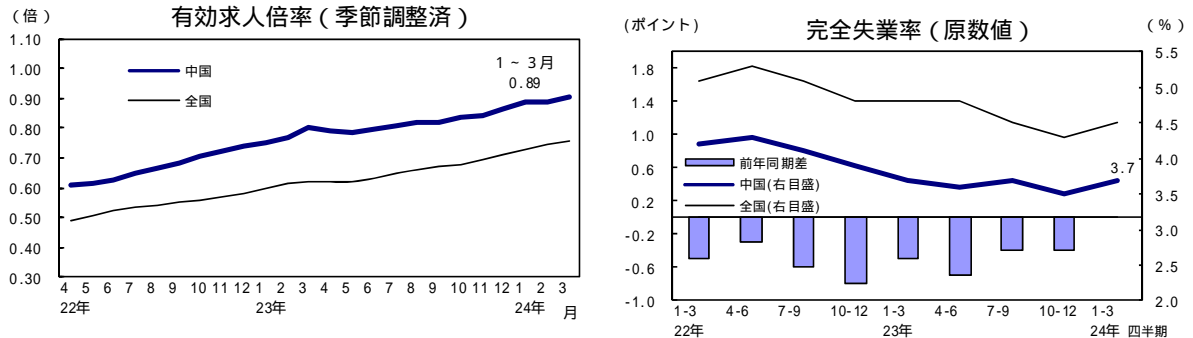


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

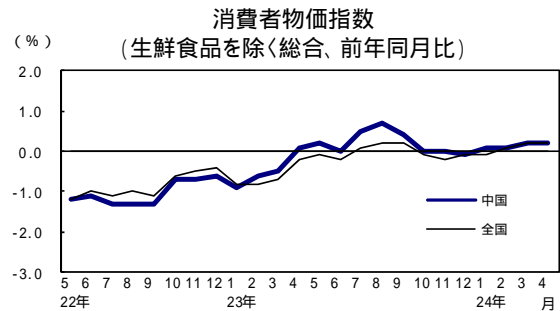
「サービス業、卸・小売業、宿泊・飲食業は慢性的に求人意欲は強いが、食料品、一般機械、電気機械等の製造業は求人減少している。特に輸出型製造業は円高の影響もあり、求人意欲は低くなっている (職業安定所)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月	24年4月
倒産件数	129	133	143	130	35
(前年比)	16.2	20.9	50.5	14.0	6.1
負債総額	746	202	158	197	59
(前年比)	205.4	4.9	6.7	92.5	41.3



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・昨年は東日本大震災による供給不足と買い控えで大変厳しい状況だったが、今年はエコカー補助金による需要喚起で前年を大幅に上回っている (乗用車販売店)。

<先行き>

・外国人旅行者の回復が顕著であり、旅行会社に提案している宿泊プランも予約が増えている (観光型ホテル)。

